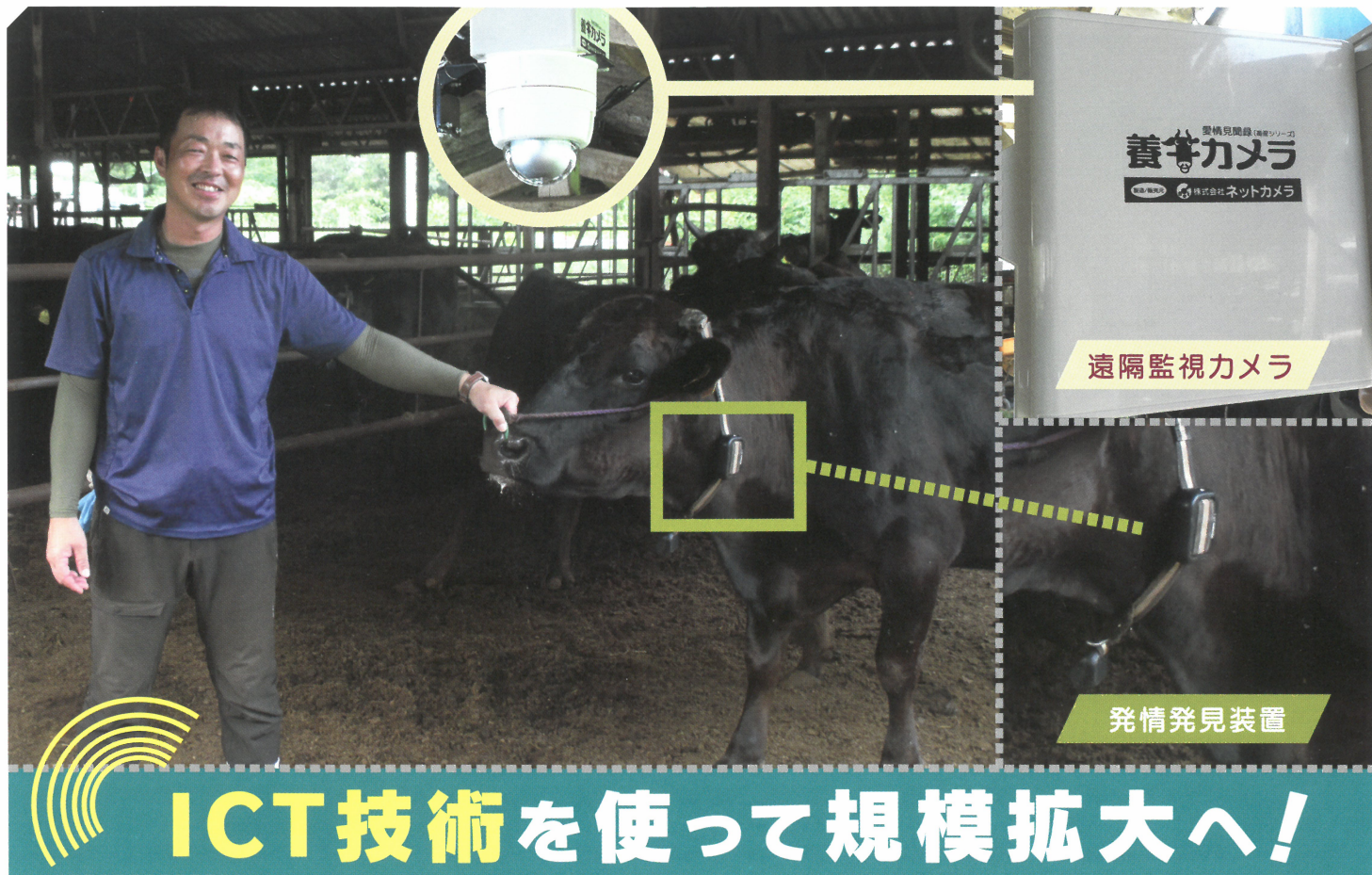


[発行所] 香川県東讃農業改良普及センター

〒769-2401 さぬき市津田町津田930-2(大川合同庁舎内) TEL:0879-42-0190 FAX:0879-42-0196

E-mail: tosannokai@pref.kagawa.lg.jp URL: <https://www.pref.kagawa.lg.jp/tosannokai/>

● 表紙…担い手農業者の紹介 ● 2p…獣害対策 ● 3p…農作業安全 ● 4p…知事表彰ほか



芳竹宣幸さん(さぬき市)は神奈川県の農業法人で5年間勤務した後、平成22年度にUターンし親元で就農しました。就農当初、F1の肥育と水稻の栽培を行っていましたが、水稻の面積が拡大したことから、稲わらを自給飼料として活用するとともに、水稻栽培に堆肥を利用する循環型農業に取り組みました。平成29年7月には繁殖用子牛を導入し、和牛の繁殖事業を開始しました。現在は繁殖和牛を37頭飼育しています。

芳竹さんは、平成30年度に県の畜産ICT事業を活用して発情発見装置を導入しました。導入前は、人工授精を行っても受胎しないこともしばしばありましたが、導入後は牛の発情がすぐに分かるようになり、受胎率は年々向上するとともに、発情観察にかかる労働時間の削減や省力化が図られました。さらに、令和2年には遠隔監視カメラを導入し、牛舎以外の場所から牛の状態が確認できるようになり、分娩の兆候の見逃しが減少しました。また、分娩観察も遠隔監視カメラで行えるため、牛舎に行く回数が少なくなり、身体的・精神的負担を軽減することができました。

現在、芳竹さんは、県の事業に積極的に取り組み、令和9年度に北海道で開催される全国和牛能力共進会を見据えて、高能力の牛群の基盤強化を行い、自身の「経営成績の底上げを図る」という目標を掲げています。

芳竹さんに今後のことについて聞くと、「5年以内に繁殖和牛を50頭まで拡大し、併せて数年以内に従業員の雇用にも取り組んでいきたい。」と語ってくれました。

今後のますますの活躍を期待しています。



獣害対策 ー 秋冬期のポイント ー

I 水稲の収穫後は早めに耕うん (イノシシ、サル)



早期栽培水稲の収穫跡で落ち穂を食べるイノシシ

【参考】ひこばえの収穫量:86kg/107-ル(玄米重)(令和元年、東農普及センター調べ)

サルがしごいた水稲の穂と穂を食べるサル(円内)

近年、成熟期の早期栽培水稲がイノシシやサルにより食害される事例が増えています。侵入防止柵を適切に設置・管理してほ場への侵入を防止しましょう。また、**餌付け防止を目的とした収穫後(1か月以内)の耕うん**により、落ち穂をすき込み、2番穂(ひこばえ)の発生を防止することも大切です。

食べ物が少なくなる晩秋に、水田に稔るひこばえを食べさせることは、イノシシやサルの繁殖を増進させるとともに水稲被害の更なる拡大を招くので注意が必要です。

II 麦若葉の食害防止対策(カモ)

1月から3月にかけて、カモが生息するため池や河川に近い麦畑で麦若葉の食害が発生しています。カモに麦若葉を食べ続けられると大幅な減収につながるため、対策が必要です。

対策は、**黒マルチを使った吹き流し(写真)**が有効です。**幅1m×長さ2~3m(大きめが効果的)**を**10アール当たり10本**設置しましょう。カモの生息地から500m位までは被害が発生することがあるので、対策は地域で取り組みましょう。



カモに食べられた若葉



麦若葉を食べるヒドリガモ(令和3年1月21日)

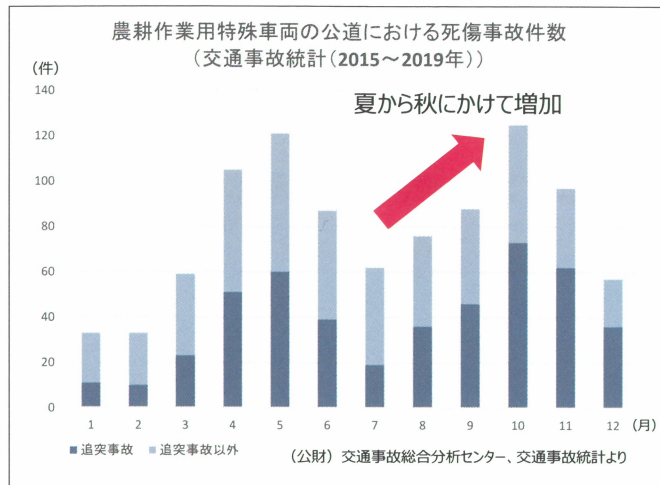


黒マルチを使った吹き流し

収穫の秋、農作業事故に気を付けましょう!

農耕作業用特殊車両の公道における死傷事故(5か年分)は、田植等の春作業時期(4~6月)に事故件数が多くなり、夏時期(7~8月)には減少しますが、収穫や耕うん等でコンバイン、トラクターを使用する秋作業時期(9~11月)になると再び増加する傾向にあります。

▶ 農林水産省
「令和3年秋の農作業安全確認運動の展開について」より抜粋



【表】全国におけるコンバインやトラクターの事故事例

事故事例	負傷状況	事故発生時の状況	改善策
事例1 コンバインで手こぎ中に、右手がフィードチェーンに巻き込まれた。	中指・薬指の複雑骨折	軍手装着	手こぎでは手袋を装着しない。予期せずコンバインが動くことがないように、刈り取り部を最下げ位置にする。
事例2 農道走行中に道を踏み外して1.2m下のほ場に転落し、トラクターから投げ出されて下敷きになった。	死亡	安全フレーム付き、シートベルト未着用	シートベルトを着用し、身体が外に投げ出されるのを防ぐ。
事例3 日没後に道路上をトラクターで運転中、後方から10tトラックに追突され横転した。	左肩肩甲骨付近の打撲	安全キャブ付き、シートベルト未着用、低速車マーク未装備	シートベルトを着用し、後方からの追突を防ぐ低速車マークを装備する。

コンバイン・トラクター使用時は次の点に留意しましょう。

- ▶ 公道の幅は車両が通行するのに十分か。
- ▶ クルマの追突防止で反射板や低速車マークを、転倒・転落に備えて安全キャブ・安全フレームを取り付けているか。
- ▶ トラクターではシートベルトを着用しているか、ブレーキペダルを確実に連結しているか。
- ▶ ヘルメットを着用しているか。
- ▶ コンバインでの手こぎ作業は緊急即時停止装置付きのコンバインを使用することが望ましい。また、手こぎを行う際は手袋、軍手、タオルは使用せず、袖口を締めるなど服装に留意する。



トラクターを運転するときは必ずシートベルトを着用しましょう!

公道での交通事故発生時のデータから、シートベルトを着用しない場合の死亡率は24.5%である一方、シートベルトを着用した場合の死亡率は約3.2%と、約8分の1に減少することがわかっています。

受賞おめでとうございます!! 令和4年憲法記念日知事表彰

【畜産振興功労】



中田 茂富様
(高松市)

平成3年から香川県養蜂組合の役員や組合長として、平成27年から日本養蜂協会の理事として地域のみならず全国の養蜂業の発展と養蜂技術の指導・改善に尽力されました。

【畜産振興功労】



山田 正頼様
(三木町)

ロータリーパーラーをいち早く導入し、乳肉複合経営における先進的な経営は県内酪農家の模範となっています。平成11年には県の畜産共進会の乳牛部門で農林水産大臣賞を受賞しました。

【農業団体功労】



宮武 正明様
(高松市)

12年余りの長きにわたり農業共済団体の役員として農業共済事業の運営と発展に貢献されました。また、高松市の農業委員として農地の利用促進に取り組みられています。

【男女共同参画功労】



多田 紀子様
(三木町)

平成2年から夫と肉用牛の肥育を始め、現在は繁殖肥育一貫経営を行っています。讃岐畜産女性の会を立ち上げ、リーダーとして畜産農家における女性の地位向上、社会進出に貢献されました。

東讃地域の農業と異業種の交流会 ～農業の魅力再発見!～

参加者募集!

開催日時: 令和4年10月18日(火) 14:00~16:00

会場: 三木町文化交流プラザ

(木田郡三木町鹿伏360 TEL087-898-9222)

【応募締切】 令和4年9月15日(木) ※詳しくは同封のチラシを御覧ください。



※昨年度の様子

LINE公式アカウント「東讃農業改良普及センター」にご登録ください!

東讃地域の農業者の皆さんに役立つ情報をいち早くお届けします!

- 国、県の支援・施策情報
- 講座・研修会の案内
- 営農プチ情報
- 病害虫発生予察
- 気象災害・病害虫被害防止に向けた技術指導



こちらのQRコードを読み取って今すぐお友だち登録!

LINE 友だち追加

